

～今月の花木～



モッコウバラ 木香薔薇

バラ科・半常緑つる性木本・中国原産

バラの中では病害虫に強く、生育力が旺盛である。
通常はフェンスやアーチに誘引して育てる。



過酷な河川の水の中草刈(河道内除草工・流水部)の現場(夏は気持ちいいと言う人もいますが)

植栽管理

暖かくなり草木が伸びるにつれ、草刈や除草、芝刈り、剪定などの植栽管理作業が増え、植木屋にとって忙しいシーズンに入ります。

寒い冬から、日増しに春めいて爽やかな新緑の季節となりました。植栽管理作業には伸びたから切る、といった対処療法的な作業が多いのですが、植物はある程度決まったライフサイクルで生活しているため、効果的な作業をする時期には目安があります。主な作業内容、時期、回数などは裏面の表をご参照ください。

年間管理のように内容を決めて定期的に実施する事業所や学校、公園などは多いのですが、年間管理の作業内容や予算では対応しきれない突発的な問題が往々にして起きます。相手が生き物につき、今まで大丈夫だったものが枯れたり、病害虫にやられたりする、最近問題となっているコナラ等が枯れる「ナラ枯れ」、サクラ等に侵入し衰弱させる「クビアカツヤカミキリ」などの被害があります。また時には台風や大雪等、自然災害による倒木などを引き起こす事もあります。

問題(トラブル)を回避しリスク軽減するには、適切な管理作業と日ごろからの観察・点検が大切です。「この通路上に枯枝がある、落ちたら危ないな」、「生垣が伸びすぎて鬱陶しく視界も悪くなってきた」など、安全面や景観に配慮した管理が求められます。

身近な植栽は生活に潤いや安らぎを与え、緑陰や緑地は都市のヒートアイランドの緩和など社会貢献にもつながります。また季節や生長による変化を楽しめる身近な存在です。

目的や作業例

予防保全

道路や建物沿いの高木が大径木化し、放任していると越境や枯枝の落枝など事故につながるリスクが高まります。樹高が高く茂りすぎると風を受けやすく台風時の倒木や枝折れの可能性が高まります。景観も悪くなり、周囲に不安を与えます。

日頃の剪定等の管理作業により、事故リスクを減らし、景観を向上することが可能です。



作業前



作業後

病害虫防除

コナラ等が短期間に枯れてしまう「ナラ枯れ」はまだ首都圏では終息しそくにありません。また、夏に向けて毛虫などの発生が増えてきます。

人の病にも言えることですが、早期発見、早期処置により被害の広がりを防ぐ事は可能です。処置は症状により対応が異なります。



ナラ枯れ・枯死木



ナラ枯れ・根元や幹のフラス



ツバキ類への薬剤散布によるチャドクガ対策

リニューアル(改修)

経年劣化などにより、植栽地やプランターなどが、みすぼらしくなってくる場合があります。

心機一転、新しくやり直すことを検討されてみてはいかがでしょうか。既存のものを利用する、全て新しいものに作り直すなど、ご予算や目的をお聞かせいただき、一緒に検討いたしましょう。

(右の写真例はプランターを全て更新した例)



作業前



作業後

私たちの生活や働く場において、植栽(植物)の生長や変化に伴う、見た目や安全面に対する不都合な事を改善するため、植栽管理作業は行われます。費用面や立地、利用状況など様々な制約がある中、優先度を見極めた作業の計画・実施が必要です。お困り事がありましたら、お気軽にご相談ください。

植栽管理年間作業目安

作業時期は一般的な目安です。植栽の種類や気候、目的により変わりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

適期 ●●●●●●●●●● 多少よい時期 ●●●●●●●●●●

作業内容\時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
樹木管理													
常緑樹剪定		常緑樹は新芽が落ちてからがよい							常緑樹は寒い時期はよくない				
落葉樹剪定		花木は花芽形成前に剪定		夏期剪定(軽剪定)				落葉前だと落葉清掃が楽/冬期剪定(基本剪定)					
針葉樹剪定		針葉樹は時期によらず強剪定に弱いものが多い											
植込みや生垣刈込		花木は花芽形成前に剪定					花芽形成後の花木は、とびを取る程度に軽く刈込む						
植込み地除草		最低年2~3回は行いたい											
施肥	春の芽だし肥や花後のお礼肥(速効性肥料)							寒肥は特に有効(遅効性肥料)					
病害虫防除	チャドクガ(ツバキ類)注意			サクラ、ツバキ類注意			冬季にはマシン油乳剤、石灰硫黄合剤が散布できる						
マツ手入れ	みどり摘み						もみ上げ(古葉落とし)、透かし剪定						
マツ枯れ防止	枯マツは4月までに伐採が特に有効						冬期はマツ枯れ予防の殺線虫剤の樹幹注入時期						
ナラ枯れ防止	殺菌剤の注入や資材被覆などの処置						枯死木は伐採や、くん蒸等処理						
	枯死木は春先のキクイムシ成虫脱出前に伐採が良い												
芝生管理	※冬に休眠(冬枯れ)する、野芝や高麗芝などの日本芝の場合												
芝刈り		月1回		月2回		月1回(11月で刈り止め)							
除草剤散布						冬雑草発芽前				夏雑草発芽前			
施肥													
手取り除草										冬雑草は目立つので取りやすい			
芝張り(補植含む)													
裸地・そのた管理													
草刈り・除草		最低年3~4回は行いたい						11~12月で刈り止め					
落ち葉はき	新芽が出た後の常緑樹(常盤木落葉)						落葉樹						
樹木点検	枯枝や危険木の早期発見			台風被害の予想点検			台風後の被害点検			大雪後の被害点検			



初夏のクスノキ



堆積する落ち葉



樹冠内の新葉~古葉
(茶褐色の古葉は手で簡単に落ちる)

4月以降、クスノキなど多くの常緑樹は新葉が出揃う初夏にかけて、古い葉を落とし、多くの常緑樹の一枚の葉の寿命は2~3年のようです。冬の手のケヤキなど落葉樹とは異なり、全ての葉を落とすことはありませんが、それなりに古い葉を落として葉の入れ替えを行っており、常緑の大木の近くに住んでいる方などは春先に落ち葉が多くて厭だなど感じる方もいるようです。俳句の季語にもなっている「常盤木落葉」、密やかな生命の営み、世代交代の証です。

